

平成 21 年 11 月 19 日

雲南市議会議長 堀江 眞 様

教育民生常任委員会委員長 細田 実

教育民生常任委員会行政視察研修報告

下記のとおり視察を行いましたので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成 21 年 10 月 27 日 (火) ～ 29 日 (木)
2. 視察先 長野県東御市
3. 参加者 教育民生常任委員会
細田実委員長、福島光浩副委員長、佐藤隆司委員、西村雄一郎委員、細木和幸委員、周藤強委員、光谷由紀子委員、小林眞二委員
随行職員
藤井勤副市長、政策企画部 新一幸部長、健康福祉部 松村千弘部長、曾田誠二次長、身体教育医学研究所 うんなん 竹下博昭主任企画員、総務部 原修統括技術師、藤原直樹統括技術師、議会事務局 森山康副主幹
4. 研修目的
 - ・ 東御市の保健行政と身体教育医学研究所のとりくみ
 - ・ 水中運動の理論と水中運動の実践状況と効果
アクティブセンターの運営状況について
施設視察と利用者の声拝聴

5. 研修まとめ

○長野県東御市について

東御市は、小県郡東部町と北佐久郡北御牧村の 2 町村が合併して、平成 16 年 4 月

1日に誕生した市である。発足時の人口は約32,000人、世帯は約11,000世帯、高齢化率は約23%で、地理的には長野県の東部に位置し、北は上信越高原国立公園の浅間連山を背にし、南は蓼科、八ヶ岳連峰の雄大な山なみ、島崎藤村が詩に詠んだ千曲川と鹿曲川の清流とが織りなす豊かな風土と歴史に恵まれた、面積約110km²の市である。

○地方都市でのプールを活かした健康増進について

説明者：身体教育医学研究所 研究部長 岡田真平

ケアポートみまきについて

ケアポートみまき（東御市布下）は、1995年に北御牧村が設立した社会福祉法人みまき福祉会が財団法人日本船舶振興会（通称：日本財団）から助成金を受け、また近隣自治体からの補助や住民の寄付等を得て建設された、保健・医療・福祉の総合施設である。

施設は、居住部門（特別養護老人ホーム）3, 505m²、健康福祉部門（温泉アクティブセンター）2, 180m²、総合相談窓口（事務室、会議室）1, 008m²、医療部門（温泉診療所）519m²に区分けされている。

建設事業費は26億8千万円で、財源として補助金が日本財団から18億1千500万円、長野県から1億8千万円、旧北御牧村から2億500万円。寄付金として1億5千600万円、借入金として3億2千400万円である。

ケアポートみまきが掲げる理念は、「『いつまでもすこやかに生き生きと安心して暮らし続けたい』その願いをかなえる核となります。」であり、医療事業、保健事業、福祉事業の3つを柱として一体的な推進を図っている。

医療サービスは、敷地内にある東御市立みまき温泉診療所において、看取りまでの地域医療と地域リハビリを主に行っていて、保健事業では、身体教育医学研究所温泉アクティブセンター内のプールを運動療法的に利用されている。また、福祉事業としては、施設介護（特養）、通所介護（デイサービス）、訪問介護（ホームヘルパー）、訪問看護、ケアマネジメントを行っている。



水中運動の理論と水中運動の実践状況と効果 温泉アクティブセンターの運営状況について

温泉アクティブセンターの運営状況の課題として困難であったことは、いかに利用者を増やすかということであった。これに対する対策としては、料金体系の見直し、サービス内容の充実、診療所や行政・研究所活動の連携強化であった。

料金体系の見直しは、平成7年当初、年会費12,000円、当日券600円で運営を開始

したが、収支はマイナスが続いていた。平成13年に年会費制から月会費制へ舵を切り、月会費3,000円、当日券800円へ変更したが、収支は赤字であった。この時点で、会員数は約1,200人。平成15年に月会費を3,000円から4,000円に変更してから、収支はプラスになり現在が続いている。平成19年に月会費を5,000円、当日券を1,000円に値上げしている。平成21年10月20日現在の会員数は、1,376人である。平成20年度の収支は、収入8,800万円、支出8,500万円である。



月会費が5,000円と高いように感じたが、実際の利用者に聞くと安いという声が多かった。今までの会費が安く施設運営がやって行けるのか心配していたという声もあった。また、施設自体が大きく、各種プールが3つ設置されていて、それぞれに利用目的、水の温度が違っていた。かなり豪華な施設であると感じた。

経営が成り立つ背景には、対象エリア内に30万人の人口を要していることが大きい。

サービス内容は、水泳教室、個別運動相談、アクアエクササイズ、フロアエクササイズ

ズ等、有料無料のメニューが充実している。

診療所や行政・研究所活動の連携強化は、施設内診療所の医療サービスとの連携、地域へ出かけての出前活動との連携で、定期的なプール利用を図る道筋を作る努力がされていた。必要性の高い対象者は地域に潜在しているので、地域に出向いての関わり、掘り起こしが重要とのことであった。雲南市の場合は、地域運動指導員という仕組みで広い地域をカバーし、地域のつながりの中で運動指導を行っているので、地勢が違う中で、それぞれにあったやり方で努力されていると感じた。

水中運動については、調査によって、脚力の低下が進んだ人ほどその後介護状態や死亡へ移行する可能性が高いことが示されたことから、老化は足からということで、膝や腰に痛みを訴える高齢者においては水中運動が効果的とのことであった。

また、日常的にプールを利用してもらって、まず体を動かすことを楽しんでもらうということを第一とされていた。そして副次的に生活習慣病の予防・軽減、骨・関節疾患の予防・軽減、人生の質の維持・向上という効果が本人に生まれ、また社会全体への効用として、医療費の低減、寝たきり高齢者数の低減、家族の幸福と地域の活性化が図れるということであった。

老人医療費は長野県全体ではこの10年間に平均10万円アップしているのが、東御市では4万円の減と抑制されていた。総合的な健康づくりによると考えられる水中運動と医療費抑制との関係は科学的データでは示されていないということであったが、一つの要因であると思われた。

○東御市（旧東部町）総合福祉センター、市民病院（旧東部町立ひまわり病院）視察について

総合福祉センター

市の福祉・保健活動の拠点施設であるこの施設は、平成12年2月に開館した。建物は、鉄筋コンクリート造3階建て、延べ床面積は4,148㎡で、施設全体の出入口や廊下等は段差を無くし、手すりも各所に設置するなど高齢者や障害者が安心して利用できる施設となっている。

財源は、地域総合整備事業債12億7千600万円、一般財源4億6千400万円の17億4千万円である。

この施設は、1階に民生福祉部福祉課（福祉事務所）や健康保健課保健係、在宅介護支援センター、社会福祉協議会、ヘルパーステーション、ボランティアセンターなどがあり、2階には、診療室・栄養指導室・いきいきルームなどのある保健センター

と、教養娯楽室や浴室などのある高齢者センターがある。3階は、多目的に使用できる講堂と2つの研修室がある。

敷地面積10,332㎡で、この建物以外に遊歩道やあずま屋のあるミニ公園、駐車場となっている。

拠点施設であるので、1箇所ですべてのサービスが行えるよう整備されており、効率的に運営されていると感じた。



東御市民病院

東御市民病院は、移転新築し、平成15年10月に開設した。

敷地面積は、11,170㎡、建物は鉄筋コンクリート造3階建て、延べ床面積は6,112.68㎡、病床数は60床である。

財源は、病院事業債から18億2千万円、一般財源から9億1千400万円の27億3千400万円である。

診療科目は、内科、心療内科、消火器科、循環器科、呼吸器科、外科、校門科、整形外科、小児科、麻酔科、眼科、アレルギー科及びリハビリテーション科である。

病院では、健康管理部門の充実と在宅の高齢者・障害者や退院後の患者等の訪問診療機能を充実させるとともに、保健・福祉と連携した支援システムづくりを進めている。

現在特に力を入れられているのは、地域連携と助産所開設であった。地域の医療を取り巻く環境が厳しい状況は雲南市と同様であり、見習うべきところは見習っていかねばならないと痛感した。

